



# 共通教育通信

2003 AUTUMN

vol.1



# 共通教育通信 創刊号

## 2003 Autumn

Contents

### 巻頭言

「いにしへの奈良の都の八重桜…」

1

文 赤岡 功

新入生向け少人数ゼミナー  
(ポケット・ゼミ)の紹介

フランス語で歌おう

2

文 松島 征

ブラックボックスを開けよう

4

文 北野 正雄

新入生アンケート「中間報告」

6

文 大山 泰宏

「ご存じですか？」

全学共通教育棟

10

「共通教育通信」  
創刊にあたって

平成15年4月に全学共通教育を全学的な立場から企画・運営する目的で、「高等教育研究開発推進機構」が設置され、「全学共通科目」を履修する学生、「全学共通科目」を担当する教官を対象に、カリキュラムや各種のさまざまな活動や今後の運営・計画等について、情報をお知らせするとともに相互のコミュニケーションを図るべく、広報誌を発行することになりました。広報誌は、「共通教育通信」と名付け、ホームページ上でも公開し、春期及び秋期の年2回発行の予定です。

創刊号は、主に、全学共通科目におけるカリキュラムの特徴的なものとして好評を得ている「新入生向け少人数ゼミナー（ポケット・ゼミ）」と、今年度から、新入生対象に実施した「新入生アンケート」を紹介しました。

今後は、紙面をより一層楽しいものとして、皆さん方の「生の声」が聞けるもの、また反映できるものにしていきたいと考えていますので、この創刊号に対する「意見・ご感想を含め、どんなささいなことでも裏表紙のメールアドレスにお送りくださいますようお願いいたします。

なお、次号は、平成16年3月発行の予定です。

# 「いにしへの奈良の都の八重桜」

高等教育研究開発推進機構長

赤岡 功

「…けふ九重におひぬるかな」とつづくこの歌、日本で育った人なら誰でも知っている伊勢大輔の歌である。彼女が、一条天皇の中宮、彰子に新参として仕えはじめたころ、毎年、奈良の興福寺から八重桜が献上される習慣があった。その桜を御所の階にかざると、まことに絢爛として美しい。

この桜を受け取る晴れがましい役は例年紫式部である。ところが、紫式部はその役をこの年、なぜか新入生の伊勢大輔に譲った。清少納言などあまたの女官、貴官の居並び注目するなかである。さて、桜を受け取ると、藤原道長が歌も奉るようになるといつか伊勢大輔集。あたら、大変。優れた歌ができなければ面目がたない。なにしろ祖父も曾祖父も著名な歌人、歌の家の出である。しかも、大舞台であり若い上に新米である。普通なら胸が高鳴るところである。しかし、幼いころからよく学んでいて実力をつけていて本当によかった。

このときに歌ったのがこの和歌である。八重桜も豪華絢爛であるが、この歌も堂々としてかつ美しい。その上、奈良の七、八重桜の八、九重の九と、末広がりの上昇で祝意が込められている。人々は感嘆したと伝えられる（藤

原清輔「袋草紙」）。だから、この歌に刺激をうけ、歌われた歌も多い。俳句をひとつあげておこう。

奈良七重七堂伽藍八重桜（芭蕉）

さて、京都大学高等教育研究開発推進機構は、今年四月一日発足した。例年なら桜は十日ごろに満開となるが、今年、一日には時計台の東の桜、教



2003年4月2日 工学部前から撮影

は総長は入学式で時計台のお話をされると聞いていたので、さりげなく時計台も入れておきたかった。

京都大学としては、基本理念のなかに教育にかかわる項目を二つおいて、「多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる」、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する」と謳っている。機構としては、全学の協力を得て、この教育理念にそって努力するつもりである。

教育学部の南の桜などキャンパスの桜が咲き始めていた。時計台が事中なので、新入生には「時計台と桜」を見つけていく。しかし、折角である。ぜひお見せし、記念写真用のスポットもお知らせしたいと思って今年から実施した「新入生ガイドダンス」第一日目の二日朝に写真をとりにいった。そして無事、学生の皆さんにお見せできた（実

新入生ガイドダンスのときに、アンケートを実施して、京都大学へ入学した抱負を自由記述で書いてもらったところ、幸い意欲が高いことが分かった。学生諸氏には、この学習意欲を堅持していただきたいと思う。もし、伊勢大輔が十分な勉強をしていなければ、紫式部の大抜擢を生かすことはできなかったであろう。大チャンスは一生に何度か誰にでも訪れるものである。それを生かせるかどうかは日ごろの研鑽による。桜をみれば、この有名な話を思い出して、しっかり学んでいただきたいと思う。



高等教育研究開発推進機構長  
大学院経済学研究科 教授

赤岡 功 1942年生まれ  
京都大学大学院経済学研究科修了 京都大学経済学博士  
専門は「経済学原理」、趣味は「音楽鑑賞」



「フランス語で歌おう」というシャンソンの授業を思いついたきっかけは何ですか？

わたしはもともとシャンソンが大好きで、若い頃それがきっかけでフランス語の勉強を始めたくらいです。これまでにNHKのラジオ講座応用編や各地のカルチャー・センターなどでいろいろなシャンソンを紹介し解説してきました。「ポケット・ゼミ」は新入生を対象とするセミナーで、期間も前期の3ヶ月余ということなので、シャンソンを歌いながらフランス語の発音に強くなるう、というのが松島ゼミのねらいです。われわれ日本人は「シャンソン」と聞くと、「枯葉」のようなラブ・ソングを思い浮かべますが、《chanson》というフランス語は英語の《song》と同じく「歌」という意味なのです。ですから、わたしの用いる「シャンソン」という語は、わらべ唄や民謡から始まって、最新流行のラップ、ライに至るすべてのジャンルをカバーしています。

どんな雰囲気での授業をされているのですか？

学生たちをリラックスさせて、歌いやすい雰囲気を作るように努めています。そのためにはシャンソンのカポアケを用いることもあります。最初はヤ

わらべ民謡（たとえば、Frère Jacques, Au clair de la lune など）を聞かせて、発音の説明と指導をします。それからおもむろに歌唱指導に移るのです。Frère Jacques（修道士ジャック）のような繰り返しの多い単純な歌の場合には、カノン（輪唱）の指導もやります。3つか4つのパートに分けて順番に交代しながら歌うのです。そのようにして次第にフランス語の歌に慣れてもらってから、「枯葉」や「薔薇色の人生」のような、ちょっと「内容のある」大人向けのシャンソンに移行します。日本の国立大学ではきわめてユニークな「歌のおじさん」ならぬ「歌う教授」というわけです。

今年度はどのようなシャンソンを歌いましたか？

民謡では、上に挙げたAu clair de la lune, Frère Jacques から始めて Sur le pont d' Avignon, Aux marches du palais, Voici la Saint-Jean, Trois jeunes tamboursなどを歌いました。いずれも日本の民謡のイメージとはちがって、リズム感が、メロディーも明るいものが多く、学生さんたちの好評を博したようです。現代のシャンソンとしては、「シャンゼリゼ大通り」「Aux Champs-Élysées」「枯葉」Les feuilles



高等教育研究開発推進センター  
大学院人間・環境学研究所 教授  
松島 征

1942年 神戸生まれ  
専門はフランス語・フランス文学、文化社会論（メディア・スタディーズ）

mortes, 「ブルネットの婦人」La dame brune, 「兵隊が戦争に行くとき」Quand un soldat... などを取り上げました。なかんずく、「シャンゼリゼ大通り」と「枯葉」に人気が集中しました。前者は歌いやすく、はじけるようなリズムがあるという理由で、後者は前に聞いたことがある（それも英語の歌として！）ので親しみやすいからという理由で...

フランス語の国歌ということになっている「ラ・マルセイエーズ」も歌ったのですよ。実はぼくにあってナショナリズムは、文字通り親のかたきなのですが、（父が兵隊に取られて戦地で無駄死にをしたのです）、「ラ・マルセイエーズ」成立の歴史的な背景から始め、ゲンズブールによるそのパロディ（レゲエ・ヴァージョン）も紹介しながら、現代フランスではこの歌が一種反動的な役割を帯びていることまで話しました。きょうびの若者にこんな話をしてもわかってもらえるのかなあ、なんて空しさをいいたげながら...

上のイラストは、松島教授のお嬢さんがお描きになったものです。

# フランス語で歌おう

高等教育研究開発推進センター

松島 征



それで、学生さんたちの受けはいかがでしたか？

全体としては好評でした。京都大学紹介のためのビデオ撮影を含めた取材が行われたとき、インタビュアーに応じたくれた学生たちはこんなことを言っていました。

「普通のフランス語の授業とちがって、みんなで大きな声で歌えるのが楽しい」「授業に参加しているという実感が湧いてよい」「講義形式の一方的な授業ではなく、気軽に参加できる」「教官との距離、他の学生との距離が近く感じられる」等々。

また、これまでシャンソンを聴いたことがなく、フランス語歌謡について無知に等しかった学生が、フランス語とシャンソンに興味をいだいてくれるようになったこと、シャンソンの奥の深さに気づいてくれたことはうれしいかぎりです。これだからポケット・ゼ

ミはやめられない。来年度も続けま  
す！

先生はどんなジャンルの音楽がお好き  
ですか？

やたらに騒々しいばかりのハード・  
ロックをのぞけば、どんなジャンルで  
も聴きます。でも、基本的にはジャズ  
のフーリングの軽いノリの歌(ボサ  
ノヴァなど)や、ブルース、ファドの  
ような泣かせる旋律が好きです。わた  
しの一番好きな歌い手は、ジョルジ  
ユ・ブラッサンスというシンガー・ソ  
ングライターです。もう二〇年以上も  
前にこの世を去ったのですが、今でも  
フランス人の間で絶大な人気をもつて  
います。その他では、モンタン、ムス  
タキ、バルバラ、グレコ、ゲズブー  
ルなどの歌もいいですねえ。

最後に、フランス語がうまくなるコツ  
があったら教えてください。

連日、フランス語の世界にドップリ  
つかることです。もしフランスに留学  
できるのであれば、これに越したこと  
はないけれど、そう簡単にだれにでも  
できることではない。自らフランス語  
に接する機会を作り出すのが肝心です。  
フランス人の友達ができれば最高だが、  
これもそう簡単にはできない。フラン

ス語の本を読むだけではフランス語は  
上達しません。語学学校に通ったり、

フランスの映画やビデオを見て聞き取  
りの力をつけましょう。NHKラジオ  
のフランス語講座を毎日欠かさずに聴  
くだけでも効果は高い。なにしろ一ヶ  
月の授業料(テキスト代)はわずかの  
350円なのだから、ラーメン一杯よ  
り安いのです。こんなに安い授業料で  
手取り足取りでいねいに教えてもらえ  
るので、利用しないのはアホで  
す。かく申すわたし自身、まがりなり  
にもフランス語を使いこなせるよう  
になったのは、高校生の時からNHKの  
ラジオ講座でフランス語の学習を始め  
たからなのです。京大に入った時には  
既に綴りの読み方をマスターしていた  
ので、みんなが難しいというフランス  
語の発音にはなんの苦勞も感じなかつ  
た。おや、オチが自慢話になったのは  
まずかつたかな。失敬しました。

\*「フランス語で歌おう」の授業を見  
せていただいて、教官も学生も楽しみ  
ながら授業をしているという印象を受  
けました(一番、先生が楽しそうでし  
たが)。あつという間に、時間が過ぎ  
ていった感じです。フランス語の授業  
で見る松島先生とはまた違った面を見  
ることのできる貴重な授業です。

3年前から、新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）「ブラックボックスを開けよう」を担当している。テーマを設定した動機や、この3年間の顛末を紹介しよう。若者の理科はなれ傾向が指摘されるようになってから、すでに十数年が経過している。各方面で試みられているさまざまな対応策も決定打が見い出せないまま、さらに包括的な学力低下の問題にも対処しなければならぬ事態に立ち至っている。周囲の学生を観察してみても、工学部志望であるにもかかわらず、ものづくりの体験が圧倒的に不足していることが多い。経験があつたとしても、中学の技術科で工作キットを作るといった受動的な体験に留まっており、進んで何かを作ってみようという意欲が希薄である。

ものづくり体験の不足は、技術やそれを支える科学に対する無関心と深く結びついている。今回ポケット・ゼミを担当するに当たって、このような理科はなれの実情を学生と一緒に議論したり、考えたりできるようなテーマを設定したいと考えた。理科はなれの原因の一つとして身の回りの道具たちの多くがブラックボックス化されてしまったことが挙げられ

右 : 授業風景-黙々とブラックボックスを開けている  
 左上 : ゲームマシンも中身はパソコン  
 左下 : 余った携帯電話は簡単に集まる



る。ボタンを押すだけで、必要な仕事を黙々と行うのは、装置としての理想形ではあるが、それを可能にしている物理法則や技術上の工夫が完全に隠蔽されてしまっており、内部への関心や接触を拒絶しているようにも見える。ファイマンの自伝「冗談でしょう、ファインマンさん」は、彼のラジオ少年としての活躍のエピソードから始められているが、ブラックボックス化する前のラジオが、多くの理系を志す若者の夢を育んでいたことを雄弁に物語っている。

「このような考えから、テーマ名を「ブラックボックスを開けよう」とし、シラバスには、「われわれは、ボタンを押すだけで、あるいは勝手に動くブラックボックス達に囲まれて生活している。ここでは、身近にある、気になる箱を徹底的にバラして中をのぞいてみよう。」と目的を掲げて、ポケット・ゼミを開講することにした。ものを壊すのは、作ったり修理したりするのに比べて安易ではあるが、秘密の箱を開ける瞬間の楽しみはなかなかのものである。

受講希望者は、毎年30名程度であるが、抽選で10名に制限させてもらっている。所属学部はやはり理系が多いが、30%程

# ブラックボックスを

# ブラックボックスを開けよう

大学院工学研究科 北野 正雄

これまで分解したものは、パソコン、使い捨てカメラ、ビデオプロジェクト、ビデオデッキ、レーザープリンタ、携帯電話……

# 開けよう

度の文系の学生も受講している。女性の割合は15%、電気電子工学科の割合は約20%程度である。授業の方針としては細かい計画は立てずに、各自の興味や議論の成り行きに任せるようにしている。ブラックボックスに関する自由討論を通して、開けてみたいものをできるだけ多く提案し、その中から入手可能性などを考えて10種類程度に絞りこむ。そして、2、3人のグループに分かれてブラックボックスを入手し、作業(分解、観察、記録)を行う。これまで分解したものには、パソコン、使い捨てカメラ、ビデオプロジェクト、ビデオデッキ、レーザープリンタ、携帯電話、ICカード(スイカ)、ファミコン、CD-ROMドライブ、光記録媒体(CD、CD-R)などがある。分解作業を数週間行っていると、何かを作ってみたくなってくるものである。分解に比べると、制約が多く思ったものが作れるとは限らないが、遊びと割りきって、いろいろな挑戦している。製作(しよう)したものは、ラジオピンホールカメラ、録音機、バーサライター、テレビ、電光掲示板、シャボン玉恐竜の折り紙、テレビ、インバータなどがある。お決まりのレポートを無理に課

することはせず、遊びの気分を優先させるようにしている。オンライン掲示板やメーリングリストを利用して、時間外、期間外にも議論をしている。このテーマに関心をもって集まったメンバーなので、ものづくりを中心に共通の話題があり、議論が大層盛り上がる。とくに、女性文系の学生が弁が立ち、議論をリードし



湿度の高い梅雨の季節は巨大シャボン玉づくりに最適

ているのが印象的である。ポケット・ゼミの様子、おわかりいただけでしょうか。くわしくは、左記のURLを参照ください。

ポケット

ト・ゼミ

はさてお

き、あな

たも身近

のブラッ

クボック

スを開けてみませんか? いちおしは、携帯電話です。



自作ピンホールカメラによる風景写真



大学院工学研究科 教授  
北野 正雄

1952年 京都府生まれ  
最終学歴: 京都大学工学研究科  
修士課程(電子工学)

現在の専門: 量子工学  
現職就任: 1999年12月  
著書: 電子回路の基礎(培風館)  
趣味: 折畳自転車

このポケット・ゼミのURL  
<http://www.kuee.kyoto-u.ac.jp/~kitano/class/pocket/>



# 新入生アンケート

中間報告

高等教育研究開発推進センター

大山 泰宏

この春入学した一回生の皆さんは、全学共通教育のガイダンスを受けた後に記入したアンケートを覚えていますか？まだ集計の途中ではありますが、皆さんが考えていることの一端がおぼろげながら見えてきました。ここではその一部をご紹介します。

高等教育研究開発推進機構が発足し、いつそう学生の実態やニーズをふまえて教養教育を計画・実施することが意図されるようになった。本年度は、新入生の全学共通教育のガイダンス時にアンケートをおこない、新入生がどのような動機や希望を持って京都大学に入学してきたかの把握を試みた。

アンケートは「あなたの京都大学入学に際しての抱負を聞かせてください」という質問に、大きく2つの観点から答えるものである。ひとつは「あなたは京都大学で、何を求め、どんなことに取り組みたいですか？」、もうひとつは「本日の全学共通教育のガイダンスを受けて、あなたは教養教育としてどんなことを学びたいと思いますか？」というものである。この質問への回答を、ガイダンスを受けた後に書いてもらった。

実は、このアンケートに答えるということ自体に、教育的な意味が込められている。自分の考えを書いて文章にすることは、思いを明確化したり省察したりすることになる。また、このアンケートについて友人と話す機会があれば、お互いが何を考えているかを知ることになる。そして何よりも、このアンケートは2回生が終わるときに各自に返却されることとなっている。そこでいったん入学直後の自分の気持ちと動機を思い出し、これまでの2年間の自分の学びを振り返ってもらい、また新たな気持ちで残りの大学生活をすくしてもらおうというものである。

実際、新入生のアンケートの回答に目を通してみると、多くの学生が真摯な問題意識と希望を持って大学生活に取り組みようとしていることに、私たち教員も励まされる。私が目を通したか

ぎり「とにかく単位をとって早く卒業したい」とか「大学ではまず遊びたい」という学生は、皆無に等しい。知識を広げ思考を磨き人間的にも成長したいと、ほとんどの学生が希望している。学問として探究したいテーマを既に持っている学生も少なくない。こうした新入生の気持ちに大学がどれだけ応えていくことができるか、実に襟を正す思いであった。

このような学生たちの有り様を、全学の教官たちにも伝えたい。そんな思いが、アンケートを目にした者たちから出てきたのも自然なことである。しかしながら、入学者のほぼ全員が回答しているわけだから、その数は28000を越え膨大である。そこで、結果を集約し示そうということとなった。28000人の全部を集計したいところであるが、これではあまりにも手間がかか



# 新入生アンケート

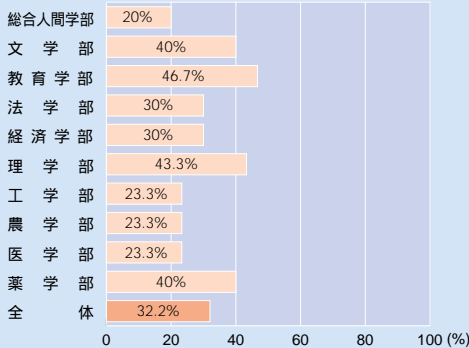
中間報告

るので、各学部から男女それぞれ15人ずつをサンプリングし、結果をまとめることとした。学部によって母数に差があり男女比も異なるが、数が多くても少なくても、学部そして男女を対等なものとして扱い、大学全体の動向を捉えようというわけである。アンケートの自由記述は、以下のようにカテゴリ化されていった。まずアンケートを概観し、どのようなカテゴリを立てれば自由記述の回答を細大漏らさず分類できるかをワーキンググループで3回の会議を経て検討し、最終的に25の分類項目が立てられた。そして、アンケート回答に各分類項目に当てはまる記述があるかどうかをチェックし、全体、男女別、学部別に「あてはまる」と判断された百分率を計算した。詳細な結果は、現在(7月末)はまだ分析中であるが、すでに大まかな傾向が読み取れる。いくつか印象的な結果をピックアップして、新入生の動向を考察してみよう。

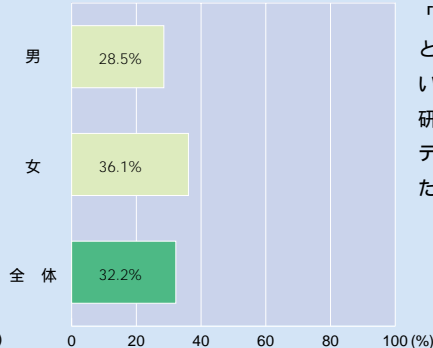


アンケートからは、学んだり研究をおこなったりしたい具体的な専門領域やテーマを決定している学生が、全体で32%もいた(図1)。世の大学論ではしばしば学生の意欲や目標の喪失が

[学部別の内訳]



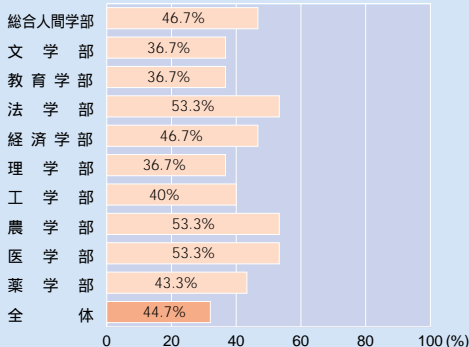
[男女別の内訳]



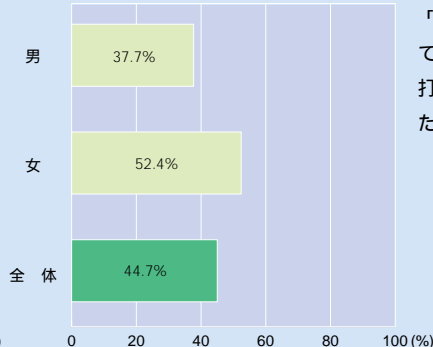
「京都大学で何を求めどんなことに取り組みたいか」という問いに対し、「学びたいあるいは研究したい具体的な専門領域やテーマ」が読みとれる回答をした割合

図1

[学部別の内訳]



[男女別の内訳]



「まだ目標を具体的に決定はしていないが『自分探し』も含め打ち込める分野を見つけていきたい」という回答の割合

図2

言われる中、この数字は喜ばしいことである。ここで注意すべきなのは、これは、「専門分野や目標を決定してしまいか」という限定された質問への回答ではないということである。「京都大学で何を求めどんなことに取り組みたいか」というオープンクエスチョンへの回答であり、前者のような質問をすれば、この数字はもっと多くなるはずである。こうしたことを考えれば、自分のやりたいことを決めて入学してきている学生が相当いるのだという認識を持ってもらいたいと思われる。ちなみに、学部別に見れば、教育学部で最も多く(46.7%)、次いで文学部、理学部となっている。教育学部の回答のほとんどは臨床心理学を学びたいというものであり、文・理では、自分が探究したい研究テーマを挙げている学生である。また薬学部では、薬の研究をおこないたいという回答が多くを占めていた。

これに対して、まだ目標を具体的に決定はしていないが、大学ではいろいろな体験をして「自分探し」も含め打ち込める分野を見つけて行きたいと読み取れる回答は、全体の45%あった(図2)。

図1と図2を比較すればわかるが、具体的目標を言明している者が多い場合は「自分探し」は少なく、具体的目標が言明されていない場合は「自分探

図3 全学共通教育で学びたいこととして、「他分野や多くの分野を学び幅広い教養を身につける」を挙げた割合

【学部別の内訳】

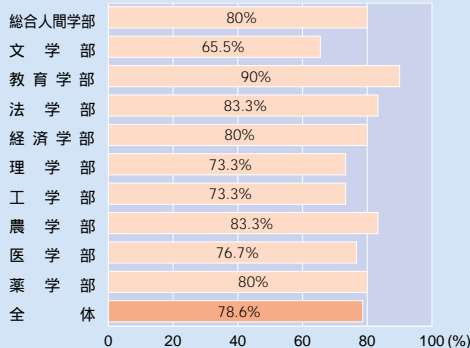


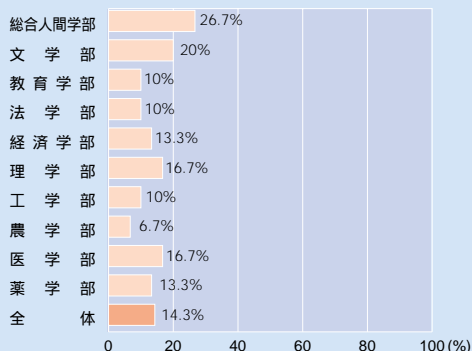
図3

も大切にしたい」という記述も多かった(男27%、女42%)。対して男子学生では、「大学では未知や至高性を探究したい」「京大の研究・教育の卓越性に期待している」と読み取れる回答が、女子学生より多くなっていった。

「自分探し」が多くなるのがわかる。「自分探し」の言明が多いのは、法、農、医の53%である。ところで、図1と図2を比較すると、男子学生より女子学生のほうが、具体的な目標を言明している割合も、自分探しをしたいと書いている割合も多くなっていることがわかる。グラフは割愛するが、女子学生には「学業ばかりでなく課外活動や人間関係

次に、「全学共通教育で教養教育として学びたいこと」として挙げられたものを見てみよう。図3からわかるように、全体で78.6%の者が「他分野や多くの分野を学び、幅広い教養を身につけたい」と、自ら言明しており、いずれの学部でも高い水準を保っている。知識欲に燃え学問を広範に学ぼうという新入生の意欲が窺える。ところでふだん、「学生は自分の専門にしか興味がなく、他分野を軽視している」という教員の言葉をよく耳にする。しかしながら今回の調査を見る限り、この見方は再検討されるべきであろう。少なくとも入学時に学生は、動機づけも高く広い分野を学ぶことを意図しているのである。広い学問分野に興味がなく動機づけも低いように学生が映るのであれば、それは単なる臆見かもしれないし、あるいは大学生活が進むにつれ、そのような興味を失っていくのかもしれない。この場合、カリキュラムや履

〔学部別の内訳〕



全学共通教育で学びたいこととして、「判断力・思考力・問題解決能力」を挙げた割合

図4-1

修指導が考え直されなければならないであろう。

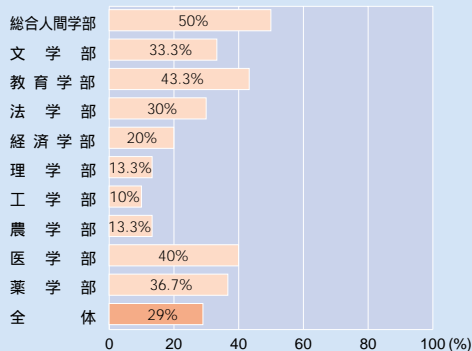
さて、教養教育というのは、単に該博な知識を持っているということだけではなく、人類のこれまでの知の集積や今生まれつつある知に接することによって、ものの見方や考え方を身につ



け、究極的には人間とは何か、世界とは何か、自分はどうのように生きるべきか、という問いかけに答えようとするものである。これに対応する観点からの回答も見られた（図4-1、2）。

しかし、それらは、「幅広い教養を身につける」ということと比べ格段に少ない。また、「人間性や世界観の涵養、人格的成長をしたい」という回答が見

〔学部別の内訳〕



全学共通教育で学びたいこととして、「人間性や世界観の涵養、人格的成長」を挙げた割合

図4-2

られた割合は、各部によって大きな差がある（図4-2）。

教養教育とはどのようなものであるか、どのような教養教育を京都大学では目指しているのかを、今回のガイドンスをはじめ、学生にはしっかりと伝えていくべきであろう。



今回のアンケートと分析は、まだまだ試行的なものであるが、新入生のリアリティをしっかりと示してくれるものであった。このデータをもとに、さらに調査方法にも改善を加え、来年度からも継続的に実施し、新入生の声を全学の教官へ伝えていきたい。これが、「対話を根幹とする教育」の第一歩であろう。



高等教育研究開発推進センター 助教授

大山 泰宏

1965年 9月生まれ

専門は臨床心理学。現在センターで手がけているのは、大学教育評価論と学生支援論。大学の教育や学びを、学生の自己成長・自己発達という観点から捉えなおし、どのような大学のあり方がデザインできるかを研究しています。



ご存知ですか？

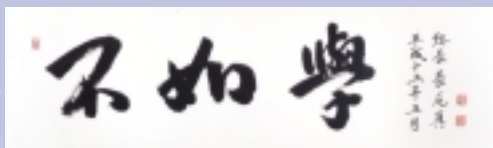
# 全学共通教育棟

吉田南構内グラウンドの東隣に建っている新しい建物です。すぐ横で工事が行われていることもあり、場所はわかりにくいですが、平成15年4月から既に全学共通教育の講義や演習が行われています。全学共通教育棟をより多くの方々に知っていただきたいので、ここでご案内します。

全学共通教育棟地階ロビーに掲げられた銘板

## 「不如學(まなぶにしかず)」について

全学共通教育棟の竣工にあたり、長尾総長が揮毫された「不如學」。そこには総長の「学び」に対する真摯な想いが込められています。皆さんも一度「学び」について考えてみてはいかがでしょうか？



原本の書は高等教育研究開発推進機構長室に飾られています。

”学”という言葉からいろんなことを連想させられます。勉強するという単純なことだけでなく、学問をするということであるのは当然ですが、これはまた”まねび”であり、真似をすることを意味します。つまり学問は、先達の為し遂げたことを徹底的に真似しなければ、それを完全に習得することが出来ませんし、またそうすることによって、それを乗り越えて新しい独自の世界を創造することができるのです。

引首印の”習至創”は”習うこと”によって創造に至る”であります。創造はこれまで世の中になかった概念を創出することであり、それは世界の存在理由を説明し、存在を支え、それに直結するものでなければなりません。その意味を込めて雅号印にはハイデガーの創出した概念である”現存在者”という印を押しました。



原書のレプリカが地下ロビーに飾られています。  
(紙面中央にある見取り図 印の場所)

長尾 真 総長による解説文より

## 休憩コーナー



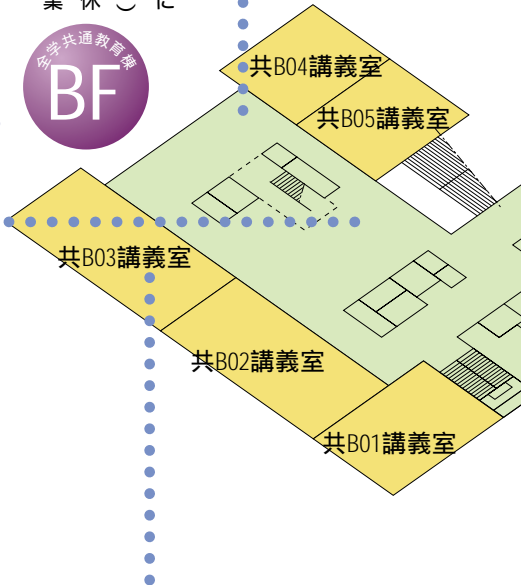
北側の地階への階段を降りて目にはいるのが、京大らしくない(?) カフェ風のテーブルとチェアの休憩コーナー。レポートの作成や授業の合間の歓談に利用されています。ちなみに休憩コーナーは2階、3階にも設置されていますが、各階ごとに異なるテーブルとチェアで構成されているってご存じでしたか？



## 地下ロビー・吹き抜け



全学共通教育棟で最も特徴的なのがこの吹き抜け。地下階から建物の天井を見上げることができる開放的な空間で、階段スペースにも使われています。1・2回生の成績表や履修登録確認表は年に2回、日を決めてここで配付しています。



## 共B03講義室

なぜか廊下と仕切が素通しのがラスになっている講義室。講義中の真剣な表情を友達からのがれるのは少々恥ずかしいかもしれませんが、ましてや居眠りなんかとてもできそうにない...と思いきや、しつかり熟睡する強者がいるとか、いないとか。



ご存知ですか？

# 全学共通教育棟



語学の授業で使用する教室です。カセットプレイヤーでリスニングと発音のチェックをした後、大スクリーンで映像を見ながら、語学学習することができま  
す。授業が終わる頃には皆さんの語学力もアップしているかな？

## LL教室



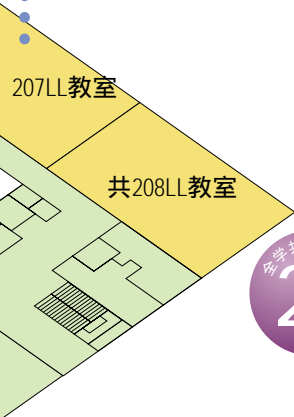
全学共通教育棟にはトイレとは別に洗面所が各階に備えられています。天井まである鏡は身だしなみをチェックするのに最適。皆さんが使う所なので、キレイに使しましょうね。

## 洗面所

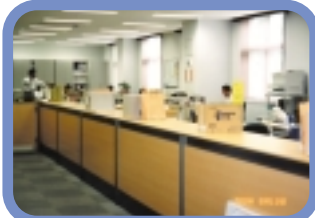


## 正面玄関

東一条通に面した北側の出入り口が正面玄関と思っている人が多いと思いますが、実は東側の出入り口が正面玄関なのです。工事が完了したら、もう少し目立つはずですが。

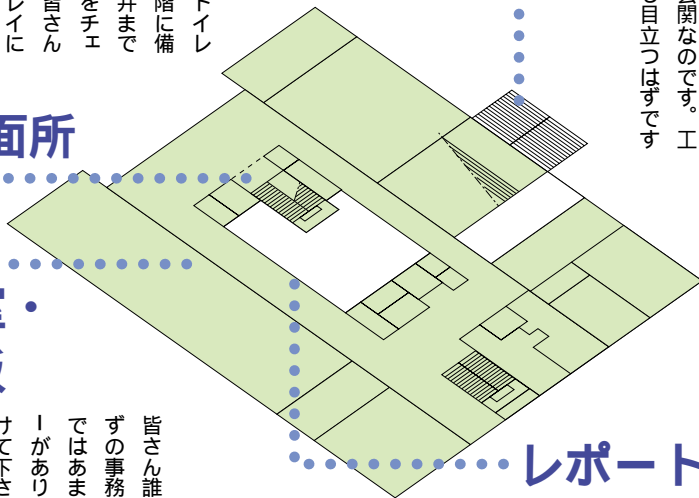
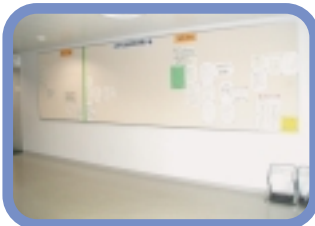


全学共通教育棟  
2F



## 事務室 掲示板

皆さん誰もが一度は来たことがあるはずの事務室。事務室にはいると、学内ではあまり見かけない長いカウンタ―があります。御用のある方は一声かけて下さい。また、重要な連絡事項やお知らせを貼っている掲示板は、見やすさを第一に心がけています。こまめにチェックして下さいね。



全学共通教育棟  
1F

## レポートBOX

レポートの提出はこちらへ。提出期日厳守です！レポートの入れ間違いが多いので気をつけて下さいね。



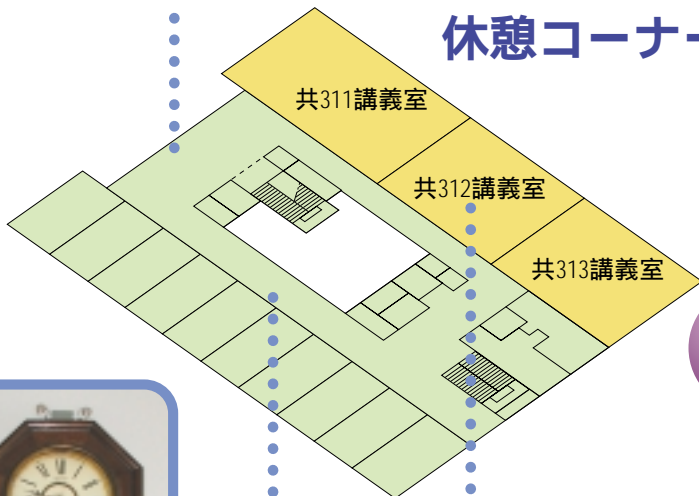




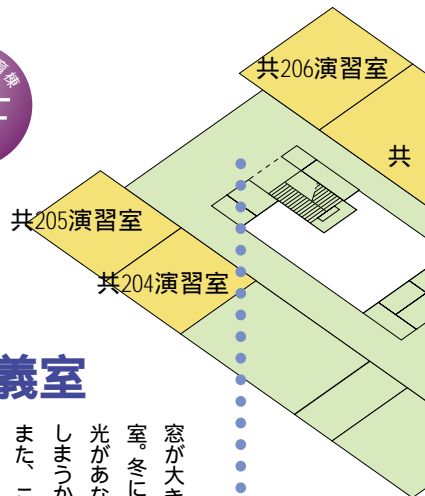
3階の休憩コーナーは見晴らしが最高。京都大学のシンボルである時計台を正面に見ることが出来ます。階下に比べて人の行き来も少なく、静かで落ちついた雰囲気なので、考え事や瞑想にはぴったりの場所です。西側は研究室なので、くれぐれもお静かに!!



## 休憩コーナー



大学共通教育棟  
3F



## 講義室

窓が大きく、とても明るい講義室。冬になると暖かいお日様の光があなたを夢の世界へ誘ってしまつかも。くれぐれもご用心。また、この棟の講義室の暗幕はすべて電動式なので手で引っぱらないようにね。



## 柱時計



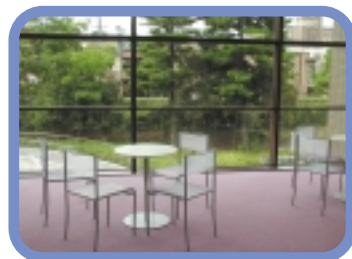
この柱時計は高等教育研究開発推進センターの大山先生を持ち物だということが分かります。早速何故ここに置いておられるのか、お話を伺いました。

「広い空間に、この柱時計が時を刻む音が響けば、心地良い空間が生まれると思います。」

また、新しい建物の空間にも歴史的な重みを感じてもらいたいとも思っています。「このような思いから、置いておられるそうです。他の階からでも時間になれば、ポーン、ポーンという音を聞くことができますので、耳をすませて聞いてみてください。」

## 休憩コーナー

2階の休憩コーナーはテーブルがちょっと小さめ。でも、ヒニールロープを編んで作られた座面のチェアは座り心地が抜群で、ゆっくり読書するのにピッタリです。



# スナップ写真大募集!!

キミの撮った写真が次号の表紙になるかも・・

「共通教育通信」では、次号からの表紙を、京大生が撮影した写真を使って制作しようと考えています。日常の何気ない風景、最近興味があるもの、友達とのスナップなど何でもかまいません、みなさんがカメラ付き携帯電話(デジタルカメラでも可)で撮影した写真を下記アドレスまでお送りください。

京都大学共通教育推進部

**E-mail : kouhou@kmail.adm.h.kyoto-u.ac.jp**

(TEL : 075-753-6513 FAX : 075-753-6691)

なお、送ってもらった写真すべてを掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

著作権や肖像権の問題により掲載できないものもあります。著作権の確認、人物を撮る場合には掲載の承諾をもらってからお送りください。

## 表紙の写真紹介



1. 外国語予備登録のサポートセンター (9/24 ~ 10/1 全学共通教育棟106)
2. 全学共通教育棟1階掲示板：工学部物理工学科
3. E号館前：文学部、総合人間学部各1回生
4. 生協吉田購買部：工学部1回生
5. 全学共通教育棟2階ロビー：工学部電気電子工学科2回生
6. 自転車置き場：工学部2回生
7. 総合人間学部図書館前：総合人間学部3回生
8. 総合情報メディアセンター：工学部1回生
9. 藤棚：工学部1回生
10. 全学共通教育棟玄関前：工学部4回生
11. 総合情報メディアセンター前ベンチ：経済学部1回生
12. 吉田南構内グラウンド：野球部
13. 全学共通教育棟カウンター：薬学部3回生

同じ写真を拡大縮小して複数回使用していますので、写真の番号が重複しているものもあります。

創刊号の表紙に使用する写真撮影にご協力いただきありがとうございました。

携帯電話等で  
写真を撮る

撮った写真を  
左記アドレスへ送信

あなたが撮った  
写真が「共通教育通信」の  
表紙に載るかも・・

次号は来春刊行の予定です。

写真には必ずメッセージ・  
所属・学年(全て含めて  
50文字以内)を添えてく  
ださい。